

様式第2号（第5条関係）

28年10月14日

出張報告書

栗山町議会議長 鵜川和彦様

栗山町議会議員

置田武司



このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 平成28年10月10日 ～ 平成28年10月13日まで
- 2 旅 行 先 高知県(高知市、土佐市) 徳島県(上勝町)
- 3 目 的 先地区視察
- 4 関係書類 別紙のとおり



日 時	平成28年10月11日 9:00 ~ 12:00
視 察 先	高知県馬路村
調査事項	“ゆず”にF3村として事業
対 応 者	馬路村農業協同組合
1. 視察目的 2. 視察内容 ① 背景 ② 特徴 3. 主な質疑 4. 考 察 (感想、政策提言、課題など)	高知市より車2時間(空港よりJ.R. 90分〜2時間) 1000m 坂の山々に囲まれた馬路村は 平成27年(2015年)現在 822人 約減半 典型的 山村である。 村の面積の 96%が森林であり 林業を 基幹産業としていたが 木材価格の低迷から 林業はほぼ廃業状態に陥っている そこで 風土や歴史文化を踏襲しつつ 果樹収入の見込める“ゆず”栽培を考察し 540年頃から栽培をスタートしたゆず 当村は生産した“ゆず”を青果物として出荷に いたが 販路の振動が大きい状態にあり 生産者としては“ゆず”を加工販売する道に 切り替えし 55年“ゆず佃煮”を商品化した 販路はJAと提携して 現在は高知県内 主に 四国と販路を広げている 地道な販路拡大で 馬路村の“ゆず加工品”の 認知度は徐々に上がっている。さらに 馬路村 事務所売場の数店舗を立ち、全国に販路を広げている 販売は通販による直販が主であり 全国各地に 約50人の産地・年間 約1億円 というスタイルになっている

糖農家のみならず、加工場の村の雇用を
生み出した。果ては、この馬路村を
訪ねる観光客は6万人に達している。

人口減少、高齢化という厳しい環境の中
6次産業化と地域活性化を実践し続け
た J.A 馬路村の組合長(栗台氏)のリー
ディングは、現況重視の視覚と、この村の
実践事例の生かす加工・販売に至るまでの
仕組みである。

これら、村の人口は減少を続け
今後の若者女性等の定住・移住を
見据えた新たな産業の起しと、
行政との連携を密にくり返す積極的
取り組みに期待を寄せられている。

村長 土谷 幸司 氏のインタビュー
時間には、有難うございました。
「印子香・杉と温泉の里」と
馬路村。

西国氏 ~~様~~ にもお世話になり
八ヶ岳を平賀に、この村
印子の馬路村は忘れたいと思える。

日 時	平成28年10月11日 14:30 ~ 16:30
視 察 先	高知県土佐市
調査事項	土佐市子ども健康づくりアクションプランについて
対 応 者	土佐市健康づくり課 課長 栗本悦郎 他
1. 視察目的 2. 視察内容 ① 背景 ② 特徴 3. 主な質疑 4. 考 察 (感想、政策提 言、課題など)	土佐市は高知市より西へ15km 高知県の ほぼ中央に位置し 温暖な田園都市である 本市は自立と共生を基本理念に 人口減少 高齢化 未来を以て活力都市 を将来都市像に掲げ、文化産業が振興 する元気なまちに 未来を夢と希望を託す 活力あるまちづくりを目指している 人口27,900人 面積91km² 人口密度 0.34 職員数287名の概要である 今回は 公共の健康づくりについて説明を受け 研修を受ける 「こころ健診」は子ども(小5~中2)を対象とした 心身生活習慣病予防健診です 対象は6才から14才のどの年齢でも 土佐市には肥満の子の割合が多い このことから 長年の生活習慣を改善するため若易く早く 子どもの頃から健康に 関心を持ち 健全な生活習慣を身につけていくことが大切である このため 大人の持病健診項目と同じ 検査を実施している 内容 日程、年4回(8月・12月)受診の用件

対象層の3希望者、保護者の同歩が可能な方
健康を通じて親子の生活習慣を振り返る
エフコサ=12月 受診率は11.5% H27年42.5%
中2 H27年15.4% 親子の価値観の現状を
今年 学校・PTA 地域を通じて受診率向上に
むけて 親子のプログラムを作成中にして
る状況の感想も 自らの身体が自分で管理可能
いることを学び 健康のオー・エー・エーを
理解し、いと思えることが理解できた

「アクションプランの趣旨」
市民の健康が 安全安心に暮らせるまちづくり
の実現に向け 生活習慣が確立され、
いよいよターゲットに 子どもの健康
内外を総合的に検証すると共に
「身体と心と脳と」の健康作り、個性と豊か
人同士の成長を互に押し
生活習慣病をいかにして 疾病予防
の推進を図る

エフコサの健康課題の解決へ ひとつとして
生活習慣病を克服する 子どもの30%の
健康づくりが大切!

この市町村にも 変化する事と思える

日 時	平成28年10月12日 14:00 ~ 16:30
視 察 先	徳島県上勝町
調査事項	彩(いろどり)事業、みどろ資源にせロ・ウェアスト宣言
対 応 者	上勝町副町長 森岡 一 様 (株)いろどり 粟飯原 浩一 氏 Amura
1. 視察目的 2. 視察内容 ① 背景 ② 特徴 3. 主な質疑 4. 考 察 (感想、政策提 言、課題など)	上勝町の概要 上勝町は徳島市内から約40km 四国山脈の南東山地に位置し山間の町で、大部分が山林で大小55の集落が点在している。総面積は109.68km² (48.6%が山林で、そのうち82%が杉を主体とした人工林とされている。人口(28.4%)166人 高齢化率61.9%とあり、四国で最も人口が少なく、徳島県で最も高齢化率の高い町である。 彩(いろどり)事業 「彩(いろどり)とは料理のつぎ物と商品化し町中の女性や高齢者も自給・自取・自産とすることで高齢化と向き合い、2016年に4軒の生産者をスタートし現在販売額2億6000万円とされている。 産、加工、流通の各环节は生産者、農協、市場をネットワークで結び、受発注情報、全国の市場情報を迅速に共有することで「上勝情報ネットワーク」を構築している。現在平成24年7月よりタブレット使用導入を始めており、高齢者の方でも使いやすさ工夫がされている。 生産者の売上やコストを把握することで「リボ」をついた情報の提供、仕事の手配、後継者の選定、町の雰囲気も明確にされている。

年収100万円に当たる高齢者をとり次世代
の人達をセーフティネットに収めること
この事業は現在市の横石氏のリーダーシップ
この地の物産商品化にすべからざる
也営業努力に懸念する者あり
過疎の町山内町に活況を呈し高齢者の
元気に働くおばあちゃんに驚かす
生産者、農協（株）の3者の一体
となって活動中である。この事業には
高齢者の雇用の場合には当然参考にする
事業といふ。

ふるさとに「ゼロ・ワースト宣言」
「ゼロ・ワースト」とは「無駄消費、減らす」という
意味でリサイクル、リユースを促進、生産段階から
処理に困らない製品をつくること、焼却、埋め立て
処理工場の有害なごみを出さないという理念です
「未来の子供たちにきれいな空気、きれいな
水、きれいな大地を継承するため、2020年に上勝町
のごみをゼロにすることを決意し、上勝町のごみ
ゼロ（ゼロ・ワースト）を宣言し、平成15年9月に
議会に可決し、関係者に取組んでいる
上勝町では町民自ら家庭で出るごみを「ステーション」
に持ち込み34種類に分別している。さらに「くさくさ
ボックス」、「くさくさ工場」事業を通じて、草刈の
リサイクル、リユースに積極的に出ている。ごみの
減量促進や普及啓発に取り組んでいる
毎日の生活の中に出るごみの処理、処分は全国各
地で、きれいな地域、きれいな町として、大々活動中である
上勝町の「ゼロ・ワースト」も県民に参考になる事業と
してよく受け止め、視察したい。